

政策番号	12	政策分野	国際化
------	----	------	-----

基本方針	1200年を超える歴史のなかで京都が蓄積してきた日本の文化を広く発信し、世界の国々からの訪問者を積極的に受け入れ、多彩な交流機会を通して新しい文化を創造し続ける国際都市をめざす。また、市民の外国文化に対する関心や理解を高め、多文化が息づくまちづくりを推進する。
------	--

担当局	総合企画局
-----	-------

共管局	産業観光局
-----	-------

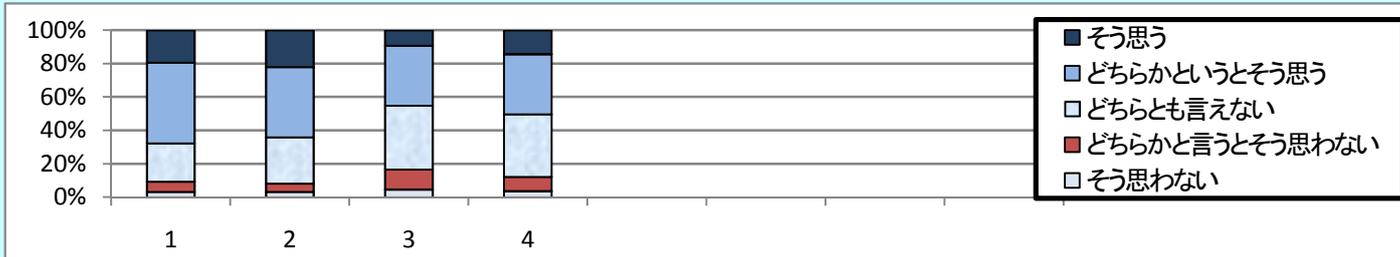
政策の評価

1 客観指標評価

指標名	23年度 評価値	32年度 目標値	年 度	年 度	23年度評価				
					前回値	最新値	目標値	達成度	評価
1 京都市国際交流会館登録ボランティア数(人)	421	800	-	-	368	421	472	89.2%	a
2 コンベンション開催件数(件)	157	-	-	-	164	157	183	85.8%	a
3 -	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4 -	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5 -	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6 -	-	-	-	-	-	-	-	-	-
客観指標総合評価									a

2-1 市民生活実感評価

番号	設問	評価		
		年度	年度	23年度
1	京都には、世界から観光、留学、ビジネス等を目的として訪れるひとびとを引き寄せる魅力と、受入環境がある。	-	-	b
2	京都は、文化資産の継承、環境にやさしい取組などを通して、平和都市として国際社会に貢献している。	-	-	b
3	国籍、民族、文化等が違って互いに理解し合い、ともにいきいきとらせるまちになっている。	-	-	b
4	京都では、市民、民間レベルでのさまざまな国際交流が盛んである。	-	-	b
5	-	-	-	-
6	-	-	-	-
7	-	-	-	-
8	-	-	-	-
市民生活実感調査総合評価				b



2-2 政策の重要度(27政策における市民の重要度)

年度		年度		23年度	
順位	%	順位	%	順位	%
-	-	-	-	19	12.2%

3 総合評価

B	政策の目的がかなり達成されている		
	<p>【客観指標】・ボランティア数は、前回から大きく増加し、a評価となった。同年度に会館最大のイベントの入場者数が過去最高となったことと併せて、PR等による会館や会館事業の知名度の向上がうかがわれる。</p> <p>・コンベンション開催件数は堅調であり、a評価となった。次回から、平成23年3月に設置した「未来・京都観光振興計画2010+5」マネジメント会議での議論に基づき、新たな目標値を設定して評価する。</p> <p>【市民の実感】・全設問の多数回答が、やや肯定的なものであった。京都は、観光や大学研究など、国際社会に対する発信力の高い分野を強みとしていることや、日常的に外国人と接する機会が多いことなどが反映された結果となった。</p> <p>【総括】・客観指標が市民の実感をやや上回る結果となった。この政策は、住む人にも訪れる人にも魅力的な国際都市を目指していることから、そうした魅力を市民に実感していただく必要がある。</p> <p>・こうしたことを総合的に勘案し、この政策の目的は、かなり達成されていると評価する。</p>	年度	-
		年度	-

今後の方向性の検討

<この政策を構成する施策とその総合評価>

施策番号	施策名	評価結果		参照ページ
			23	
1201	世界中のひとびとを引き寄せる京都の魅力の向上と発信	-	B	139
1202	市民主体の国際交流・国際協力の推進	-	A	141
1203	外国籍市民等がくらしやすく、活躍できる多文化が息づくまちづくりの推進	-	B	143

<今後の方向性>

- ・平成20年12月に策定した「京都市国際化推進プラン」に基づき、世界の人々を引き寄せる京都の魅力の向上と発信、市民主体の国際交流・国際協力の推進、外国籍市民が暮らしやすく活躍できるまちづくりの推進を図ることとしている。
- ・平成22年3月、MICE誘致を重要政策に位置付け、全国初となる「京都市MICE戦略」を策定し、受入環境の整備、積極的な誘致施策の推進、市民参加によるMICEの振興、戦略推進のための体制強化等を図ることとしている。
- ・平成23年3月の東日本大震災とそれに伴う原子力発電所の事故により、留学先や国際会議の開催地として日本が忌避されるおそれがあり、今後の状況を注視する必要がある。

政策名	12	国際化	
指標名	京都市国際交流会館登録ボランティア数（人）		
担当部室	国際化推進室	連絡先 222-3072	
1 指標の説明			
京都市国際交流会館に登録するボランティアの数			
2 指標の意味		3 算出方法・出典等	
住むひとにも訪れるひとにも魅力的な国際都市への進捗状況を示す指標		出典：（財）京都市国際交流協会調べ	
4 数値			
10年後の（平成32年度）目標値	平成23年度評価値 421	平成32年度目標値 800	根拠 過去最高値（平成20年度406人）から倍増
	前回数値 21年度 368	最新数値 22年度 421	推移 53人増
	単年度目標値		達成度
	数値 472		根拠 過去最高値（平成20年度406人）と平成32年度目標値から各年度の目標を等差的に設定（33人増加）
	89.2%		
	全国順位	中長期目標	
	数値	目標年次	達成度
	数値		根拠
			備考
5 評価基準		6 基準説明	
最新数値の目標値に対する達成度が a：80%以上 b：60%以上～80%未満 c：40%以上～60%未満 d：20%以上～40%未満 e：20%未満		当該指標については、市民や民間団体の自発的な活動意思によるところが大きいことから、80%以上をa評価とし、以下20%刻みで基準を設定した。	
		7 評価結果	
			23
		-	a

指標名	コンベンション開催件数（件）		
担当部室	観光部	連絡先 222-4133	
1 指標の説明			
1年間に京都市域内で開催された会議で、日本を含め3箇国以上から総勢50名以上の参加のあった国際会議の開催件数			
2 指標の意味		3 算出方法・出典等	
経済、文化、国際交流等の様々な分野への波及効果を伴う国際MICE都市の実現に向けた進捗状況を示す指標		出典：京都文化交流コンベンションビューロー「京都で開催の国際会議」、日本政府観光局「国際会議統計」	
4 数値			
10年後の（平成32年度）目標値	平成23年度評価値 157	平成32年度目標値 -	根拠
	前回数値 21年度 164	最新数値 22年度 157	推移 7件減
	単年度目標値		達成度
	数値 183		根拠 過去5年間の最高値
	85.8%		
	全国順位	中長期目標	
	数値	目標年次	達成度
	数値		根拠
			備考
5 評価基準		6 基準説明	
最新数値の目標値に対する達成度が a：80%以上 b：60%以上～80%未満 c：40%以上～60%未満 d：20%以上～40%未満 e：20%未満		当該指標については、民間部門の寄与度が比較的高いことや景気動向にも影響を受けるため、80%以上をa、以下20%刻みで基準を設定した。	
		7 評価結果	
			23
		-	a